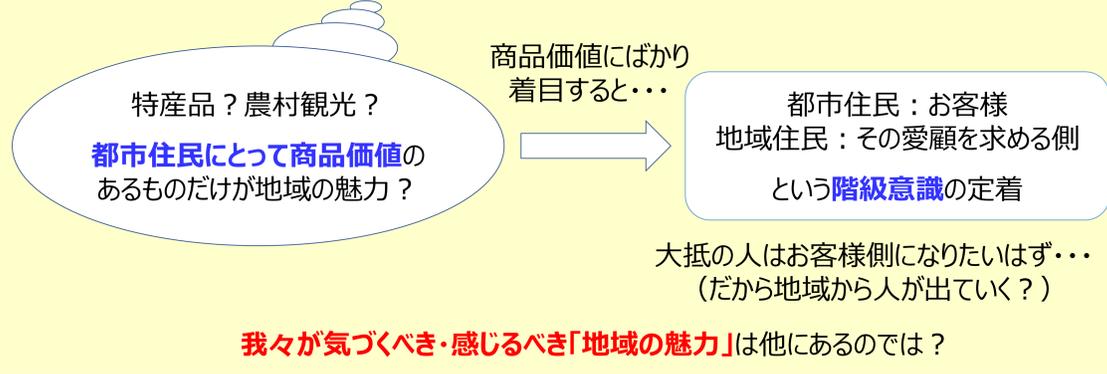


農村地域の将来に対する住民の心の内と真の地域の魅力への接近

安部夏輝・石田美月・伊藤みるく・今久保滯・蔭佐来未・桑田朋香・駒坂有紀・貞兼玲桜華・下川詞葉・利光舞・長尾真心・中岡知優・中佐古望美・福田沙久良・三戸彩萌・山内健生・山口紗果・越智りま・岸美里・田中日和・中山美咲・難波杏歌・錦織ななこ・林莉子・藤井美風・森和音・高木洋介・宮崎遥大・山根史博

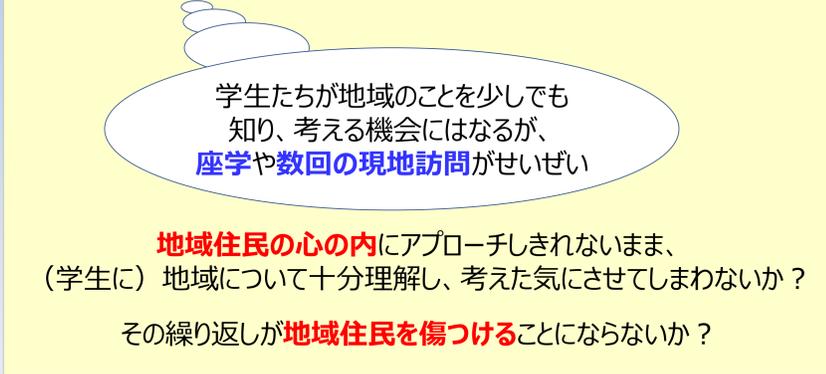
【問題意識①】

地域活性化のために「地域の魅力」を発掘し、発信すべき？ ← よく出てくるアイデア



【問題意識②】

学校教育という枠組みだけで、地域活性化に貢献することは可能？



【我々を受け入れてくれた農家さん】

- ◆ 吉岡 康仁 (こうじ) 通称：コメサンタ
- ◆ 1987年生まれ、300年続く米農家の17代目
- ◆ 大和町を活性化するため、同志を募って稲刈り体験やコメフェス(亀山神社での収穫祭)を開催
- ◆ Instagramユーザー名：komesanta_koji

【どうしても接近したかったこと】

地域の活性化は難しい、でも彼はそれに挑戦せずにはいられない彼はなぜ今の活動を始めたのか？
彼は何を望み、何に苦悩し、何を喜びとしているのか？
尋ねても、ヨソ行きの答えしか聞けないかもしれない
農作業や農村体験を経験させてもらう中で交流を重ね、彼に寄り添うことで少しでもそれを感じとれるようになりたい

1月：竹切り



かつては食料(山菜、きのこ)、燃料(柴、薪)、牛・馬の飼料、建築資材(木材、茅)などの恵みをもたらしてくれた山林今は人が入らなくなって荒れ放題だ

2月：畑仕事



東京で働いている康仁さんのお兄さんが植えたニンニク畑の草むしりをさせてもらう

凧揚げ



遊びも自然を知る勉強康仁さんのお父さんにコツを覚えてもらった

3・4月：草刈りの練習



まだそんなに生えてはいないが夏場に向けて今のうちに練習させてもらった

5月：田植え



田植えはハレの行事として位置付けられているそれにふさわしく、泥の感触に悲鳴と笑い声が響き渡るこの後、「さなぶり」と称して康仁さんたちと会食(会食自体は毎回している)

6・7・8月：草刈り



刈っても刈っても雑草は生え続ける自然は人間のためにあるわけではないと思い知るそのような自然とどう心の折り合いをつけるべきか酷暑との闘いでもあった

8月：コメフェス準備



来たるコメフェスに出店させてもらう焼きおにぎりの試作会「外部から来たお客様」になりたくなかったためフェスの当事者として参加させてもらうことにした

9月：稲刈り



稲刈りもハレの行事、康仁さんが待ちに待った日でもある康仁さんの友人やその子どもたちと一緒に楽しく稲を刈った

コメフェス(出店)



康仁さんの願いの1つは子どもたちに大和町で楽しい思い出を作ってもらいたいほんの少しだがお手伝いさせてもらうことができた

コメフェス(境内でのメインイベント)



子どもたちが夢中になって祭りを楽しむ自分が子供だったときの大和町の秋祭りの盛り上がりを取り戻したいそれが康仁さんの願いであり、原動力にもなっている

コメフェスのフィナーレ(餅まき)



無事に収穫できた喜びをみんなで分かち合う自然への感謝、社会の紐帯の大切さを思い出させてくれる大事な儀式だ



お笑い芸人のダイノジさん康仁さんの想いに共感し、毎年フェスを盛り上げている



康仁さん、これからもよろしくお願いします